

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673400091
法人名	社会福祉法人 曙福祉会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 村長の家
訪問調査日	平成21年7月21日
評価確定日	平成21年10月2日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4673400091
法人名	社会福祉法人 曙福社会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 村長の家
所在地	〒899-3221 鹿児島県日置市吹上町永吉14145 (電話) 099-299-3480

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年7月21日	評価確定日	平成21年10月2日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780	円

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	3 名	要介護2	2 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	87.6 歳	最低	81 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しいの内科クリニック・馬場病院・にこにこ歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地元の元村長の屋敷跡をグループホームとして開設し、名前の由来にもなっている。小学校がすぐ近くにあるため同敷地内で学童保育もっており、広い庭では子どもたちが遊ぶ声がし、利用者とも自然に交流が行われている。法人の理念である「かぎをかけないケア」の徹底により、屋敷跡の広くて開放的なホームでは利用者の安全確保に試行錯誤をしながら、自由な暮らしの実現に取り組んできた。運営推進会議を通じて、地元婦人会、壮年部との交流も始まり、清掃活動や生き生きサロンなどホームに足を運んでもらう機会が増え、利用者と地域の方々との交流にもなっている。買い物もあえて地元の商店を利用するなど地域との関わりを密にすることに努め、利用者の安全確保にも結び付けている。また、どんなに些細な事でもヒヤリハット事例を出してもらい、全員で常に検討しており、職員全員が意識を高め利用者の安全な生活の確保に努めながら日々のケアにあたっている。開設して9年が経つがマンネリ化することなく運営者、管理者、職員は常に自己研鑽に励み質の高いサービスの提供を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しは毎月のケアカンファレンスで見直しの必要性を検討している。介護計画の様式を工夫し、見直しの項目を新たに設け、記録に残すことにより、全職員で確認共有できるように改善した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員に事前に全項目についてまとめてきてもらい、勤務終了後数回、職員全員が夜間に集まり話し合い全員の評価を更にまとめてあげ作り上げた。見直しと振り返りのいい機会ととらえ、毎年このことが全職員が前向きに取り組んでいる。結果は全家族に配布し、運営推進会議でも報告することにより、運営推進委員の方々の協力をより一層頂けるようになった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会長、有職者、家族代表、行政の運営推進委員のメンバーに加え、消防署、警察署、小学校の校長先生、保育園の園長、婦人会長などさまざまな方に出席してもらい、意見交換を行っている。生き生きサロンとの交流や消火栓の設置など、運営推進会議で検討され、実現出来た。また、毎年、壮年部がホームの清掃、メンテナンスにきてくれるなど、壮年部との交流、つながりも運営推進会議が発端になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に手作りの意見箱を設置し、重要事項説明書にも行政の窓口以外に第三者委員を3名たてていることを明記している。日頃より話しやすい雰囲気作りにも努め、個別の相談や要望などには都度話し合っ対応できるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	学童保育施設がホームに隣接し、子どもたちと日常的に気軽に交流できる。中学生の職場体験の受け入れや小学校の日曜参観に利用者も出かけるなど地元の子どもの交流が盛んである。また、自治会に入り、回覧板を回したり、生き生きサロンの方々の訪問や婦人会、壮年部の方々がホームの清掃、庭のメンテナンスなどにきてくれるなど地域の協力を多いにもらえている。地域の夏祭り、のみの市に出かけて行ったりとホームからも積極的に地域に出かけている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で思いのこもった理念を作り上げている。母体法人が長年地域福祉に貢献しており、利用者との関わりを大切さを理解し、理念に反映させている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目につくところに掲げてあり、職員が自分たちで作上げた理念を念頭に、日々のケアに取り組んでいる。家族会に利用者や職員で理念をテーマにした寸劇を披露した。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学童保育施設がホームに隣接し、子どもたちと日常的に気軽に交流できる。中学生の職場体験の受け入れや小学校の日曜参観に利用者も出かけるなど地元の子供たちとの交流が盛んである。また、自治会に入り、回覧板を回したり、生き生きサロンの方々の訪問や婦人会、壮年部の方々がホームの清掃、庭のメンテナンスなどにきてくれるなど地域の協力を多くもらっている。地域の夏祭り、のみの市に出かけて行ったりとホームからも積極的に地域に出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員に事前に全項目についてまとめてきてもらい、勤務終了後数回、夜間に集まり、全員の評価を更にまとめあげ作り上げた。見直しと振り返りのいい機会ととらえ、全職員が前向きに取り組んでいる。結果は全家族に配布し、運営推進会議でも報告することにより、運営推進委員の方々の協力をより一層頂けるようになった。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、有職者、家族代表、行政の運営推進委員のメンバーに加え、消防署、警察署、小学校の校長先生、保育園の園長、婦人会長などさまざまな方に出席してもらい、意見交換を行っている。実際、生き生きサロンとの交流や消火栓の設置など、運営推進会議で検討され、実現出来た。また、毎年、壮年部がホームの清掃、メンテナンスにきてくれるなど、壮年部との交流、つながりも運営推進会議が発端になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	出来るだけ行き来する機会を作るため、電話ですまわず、書類1枚でも足を運び連携と交流に努めている。また、成年後見制度を利用している利用者もいる。ホームの催し物にも担当者の参加がありサービスの質の向上につながっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りに手紙を添えて近況を報告している。健康状態、ヒヤリハットに関しては必要に応じ、都度報告している。金銭管理は毎月個別の出納帳にて報告し、職員異動はホーム便りでコメントを入れて写真で紹介している。また、玄関にも職員紹介を掲示している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に手作りの意見箱を設置し、重要事項説明書にも行政の窓口以外に第三者委員も3名たてていることを明記している。日頃より話しやすい雰囲気作りに努め、個別の相談や要望などには都度話し合っ対応できるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体でも離職者が少ない。2ヵ所あるグループホームでも離職者はなく、日頃より合同で行う行事が多く、双方の職員、利用者ともなじみの関係ができています。空気入れ替え、ケアのマンネリ化を防ぐためにもほどよい間隔で異動を行っているが、利用者へのダメージがないように配慮している。また、職員のストレス解消に向けて積極的にリフレッシュ休暇ももうけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修では全職員が交代で課題をみつけ、発表の場を設けている。職員の意識向上と自己研鑽意欲が高まり、レベルアップにつながっている。外部研修も立場、経験に応じて全職員に参加の機会を設けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	国、県、地区のグループホーム協議会に加入し、全職員が交代で研修などに参加している。また、相互訪問もしており、意見交換、交流などがサービスの質の向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内いずれかのサービスを利用している利用者が大半で入居前から顔なじみであり、生活歴、家族関係などの情報は把握できている。ホームを見学してもらい、状況に応じて自宅を訪問し、本人、家族と充分に話し合っ入居してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ちまき作り、梅のつけ方、調理の方法、もちつきなど若い職員は特に利用者教わる場面が多い。職員は日常、利用者に関わりを持つなかで利用者から感動をもらうことが多く、学んだり、ともに支え合う関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の言動や表情などで見極め、気持ちを把握している。担当の職員を決めており、より詳しく状況や思いを把握し、職員全員が情報の共有化を計り、本人本位のケアに努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意向や意見、主治医からの情報などを基に職員全員で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のケアカンファレンスで職員全員で見直しの内容を検討している。細かい見直しを毎月行っており、ケアプランの様式を工夫し、新たに見直しの項目を設けるなど現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況などふまえ、病院受診、理美容院送迎など柔軟な支援を行っている。医療連携体制を活かした支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の支援が行われている。かかりつけ医による月2回の往診もあり、かかりつけ医と事業所の関係も築きながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に意向を聞いて、その後もケアプラン作成時、面談時、家族会、状況変化が生じたときなど、その都度意向の確認を行っている。ホームの指針もあり、家族の同意書ももらっている。条件が満たされればホームとして可能な限り支援する体制は整っており、職員も方針は共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは職員全員がやさしく、穏やかで、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような対応がないようお互いに確認しあいながら気をつけている。1年に1回は接遇に関する研修も行っており、入職時に個人情報に関する誓約書もとっている。また、利用者の写真掲載についても家族の了解を得て行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせるような支援ができるように努めている。起床時間など個々によって違うので朝食はずれることも多いが一人ひとりのペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園の野菜をともに収穫し、一緒にメニューを考えたり、味見や盛り付け、配膳、後片付けなど利用者と一緒にしながら行っている。ときには、お弁当箱につめて庭で食べたりと、気分を換えてみたりするなど食事を楽しむことのできる支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に入浴日は決めておらず、昼間ならいつでも入浴できるので、個々の希望に合わせた支援をしている。入浴を嫌がる利用者にはことばかけや担当者を変えてみたりと工夫して入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫い、草取り、畑仕事、台所仕事、洗濯物たたみなどその人に合った場面で出番を発揮してもらっている。また、音楽療法士をよびアコーディオンやキーボードに合わせて歌を歌ったり、踊りをおどったりしている。学童保育の子どもたちと節目節目の行事(七夕、ひな祭り、手作りの紙芝居など)の際の交流も利用者の楽しみ、気晴らしになっている。新聞、チラシを見ることを楽しみにしている利用者もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム敷地の庭が広くベンチが置いてあり、樹木が適度な森林浴に最適である。買い物に利用者とともに地元商店街に出向いたり、公園に行ったり、ドライブなどホームに閉じこもらない支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人全体の方針が「鍵をかけないケア」の徹底であり、利用者の安全確保には試行錯誤をしながら自由な暮らしの実現に向けてきた。地域の方々の協力は必要不可欠であり、新しい利用者は必ず、職員と一緒に回覧板やおすそわけを持っていきたりして近隣の方々に顔を覚えてもらったりしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を月1回行っている。あらゆるシーンを想定しての訓練を利用者ともに行っている。通報訓練の通報先は消防署、隣近所、近隣の法人職員宅などで協力的体制ができている。建物面でも、縁側と外との段差を無くし、布団ごと外に引き出して利用者を避難させる避難経路を確保するなど万全の対策をしている。また、台風などの際は法人の男性スタッフが2～3名泊まり込みで待機するように体制を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士の献立を参考にしているため栄養バランスはとれている。食事量、水分摂取量は個々に記録しており、職員は状況を把握している。また、個々の状態に応じてとろみ食やお粥などで対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はたたみの間もあり、広い施設内数ヵ所にソファが置いてある。昔の民家なので床が高く、玄関に段差があるが車イス用のスロープも設けてあり、広い縁側は外との高低差を無くしフラットにしてある。日本家屋そのもので落ち着いた雰囲気があり、家にいるような感じである。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口は木の表札がかかげられており、居室はたたみの部屋でベッドでも布団でも対応できる。備え付けはエアコンのみであるため個性のある居室作りができています。使い慣れたものや仏具、テレビ、冷蔵庫、タンスなどなじみのものが持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるように配慮している。		